

『エコクリティシズム・レビュー』投稿・執筆要領（2017年6月18日改訂）

1. 依頼する場合を除き、投稿資格は本会会員とする。
2. 投稿原稿の種類は、シンポジウム特集論文、未発表の研究論文、国際学会報告、名作シリーズ（ワークショップ報告）、環境文学の窓（環境に関わる未翻訳の詩の解説）、研究会のプログラムの報告記事等とする。
3. 使用言語は、日本語または英語とする。使用言語が執筆者の母語でない場合には、必ずネイティブ・チェックを受けたものを提出すること。編集委員会では、英語の修正は一切行わない。
4. 執筆に際しての Word 設定
 - (ア) Word のページ設定で、用紙サイズを「A4」にする。
 - (イ) 全てのページを 40 字×35 行に設定し、余白は上 35mm、左右下 30mmにする。
 - (ウ) ヘッダーを右肩（上から 15mm の位置）に設定し、フォントサイズ 9 で原稿の種類（「研究論文」、「環境文学の窓」など）を右寄せで入れる。
 - (エ) 使用フォントは、日本語はすべて MS 明朝、英語はすべて Times New Roman とする。
5. フォントサイズについて
 - (ア) 「研究論文」と「シンポジウム特集論文」のタイトルについては、主題はフォントサイズ 18、副題はフォントサイズ 14（下にサイズ 12 で英字タイトル）、氏名を 16（下にサイズ 12 で英字氏名）ですべてボールドにし、左寄せにする。
 - (イ) 上記以外（「名作シリーズ」、「環境文学の窓」、「国際学会報告」など）のタイトルについては、タイトルと氏名のフォントサイズを 12 ですべてボールドにし、タイトルは中央揃え、氏名は右寄せとする。
 - (ウ) 上記（ア）、（イ）について、タイトルと氏名、氏名と本文の間をそれぞれ 2 行あける。
 - (エ) 日本語原稿本文のフォントサイズはすべて 11、英語原稿本文のフォントサイズはすべて 12 とする。
6. 原稿の末尾に、右寄せで括弧書きにして所属を記載する。その際の使用言語（括弧記号も含む）は、日本語原稿なら日本語、英語原稿であれば英語とする。
7. 研究論文とシンポジウム特集論文の長さは、【註】【引用文献】【参考文献】を含めて、11 ページ以内、名作シリーズは 7 ページ程度、国際学会報告、環境文学の窓等は 2 ページとする。
8. 独立した引用部分は全角 2 文字分インデントする。引用文は原文、邦訳いずれでもよいが、論文内ではどちらかに統一し、既訳を使う場合は出典を示す。その他、引用形式は MLA 書式の最新版に従う。
9. 作者名、作品名を日本語で表記する場合には、初出のみ括弧内に原語を入れ、出版年を入れる。
10. 数字は半角のアラビア数字とする。ただし小見出しの数字は全角（1 2 3）とし、その後に全角 1 スペースあける。点はうたない。
11. 日本語原稿の括弧記号について
 - (ア) 括弧はすべて“Times New Roman”で表記し、括弧の前後にはスペースをとらない。【例：高木(Takaki)、Takaki(高木)】

- (イ)引用した資料の出典を括弧内で示す場合は、括弧を“Times New Roman”で表記し、著者名と出典箇所のページの間には半角スペースをあける。【例:(Takaki 25)、(高木 25)】
12. ダッシュは **MS 明朝** の全角 2 ダッシュ (——) で統一する。
 13. 註は文末註とし、本文のあと 1 行あけて記述する。【註】【引用文献】【参考文献】とボールドで表記し、その他書式の細部については、**MLA** 書式の最新版に従う。日本語資料の場合、(出版社 出版年) などの間は全角スペースとし、最後は句読点 (。) で終える。
 14. 論文等の掲載採否は、査読の結果等に基づき編集委員会の合議によって決定する。また、査読の結果により、形式・内容の変更を求めることがある。執筆者は編集委員の修正案を反映した完全原稿を、**WORD** と **PDF** の形式にして指定された期日までに編集委員会へメール添付で送信する。
 15. 投稿は 12 月末日までに編集長に申し込み、締切日は毎年 2 月末日厳守とする。投稿原稿は **Microsoft Word** (2007 以降のもので) で作成し、添付メールで編集委員長まで提出する。
 16. 原稿送り先
editorial@ses-japan.org (『エコクリティシズム・レビュー』編集委員会メールアドレス)